

# 定禅寺通エリアの特徴を生かしたまちづくり

定禅寺通エリアは、個性ある地域やゾーンで構成される多様性あるエリアであり、その個性を生かしたまちづくりに取り組みます。

定禅寺通エリアは、都心にありながら緑溢れる希少なエリアであり、ケヤキ並木の成長とともに市民活動・市民協働が育まれてきました。こうした個性をさらに高めていくために、ケヤキ並木から連想される「サスティナブル」や「エコロジー」などの社会的テーマを意識したまちづくりを進めます。

文化交流・市民活動の拠点となる定禅寺通エリアにおいて、クリエイティブな活動がさらに展開されていくために、エリア両端の「つなぎ横丁周辺ゾーン」と「西公園SL広場周辺ゾーン」を重点ゾーンと位置づけ、新たな挑戦が生まれるパブリックスペースとして積極的に活用していきます。【#クリエイティブ #チャレンジしたい人】

本庁舎建替事業  
(供用開始：2028年度予定)

仙台市役所

宮城県庁

勾当台公園再整備事業  
(供用開始：2031年度予定)

勾当台公園

つなぎ横丁  
周辺ゾーン

一番町四丁目商店街～  
市民広場～本庁舎低層部  
とのつながりを強化

西公園SL広場  
周辺ゾーン

西公園や広瀬川  
とのつながりを強化

豊かに暮らせる  
西エリア

24時間楽しめる  
東エリア

晩翠通の西側は、西公園や広瀬川とともに落ち着いた雰囲気、個性的なお店が集まっています。近年は周辺も含めマンション建設が進み、子育て世帯が増加しています。こうした特徴を生かして「豊かに暮らせる西エリア」を意識したまちづくりを進めます。【#コミュニティ #子育て世帯】

晩翠通の東側は、東北最大の歓楽街・国分町があり、3万人を超える従業者が毎日通う官庁・オフィス街を抱えています。こうした多くの交流人口が集まる特徴を生かして「24時間楽しめる東エリア」を意識したまちづくりを進めます。【#ナイトタイム #ワーカー】

0 50 100 250 500m



# 2030年までには実現したい空間イメージ①

「豊かに暮らせる西エリア」 休日昼間の定禅寺通





## 「豊かに暮らせる西エリア」 休日昼間の定禅寺通

### < 解説編 >

- 定禅寺通が日常的なコミュニティの場になっています
- 近隣の方を中心に子連れの方や年配の方なども訪れます
- 休日には個性的なお店が出店するマルシェなどが開催されています
- 西公園へのつながりが意識され、木でできたベンチや遊具などが置かれています

様々な出店やパフォーマンス等の場となる  
キューブ（木製の路上貸し出し空間）

テーブルやベンチとしても  
利用できるツリーサークル

イベント時には木製の遊具等  
を置き多様な活動を誘発

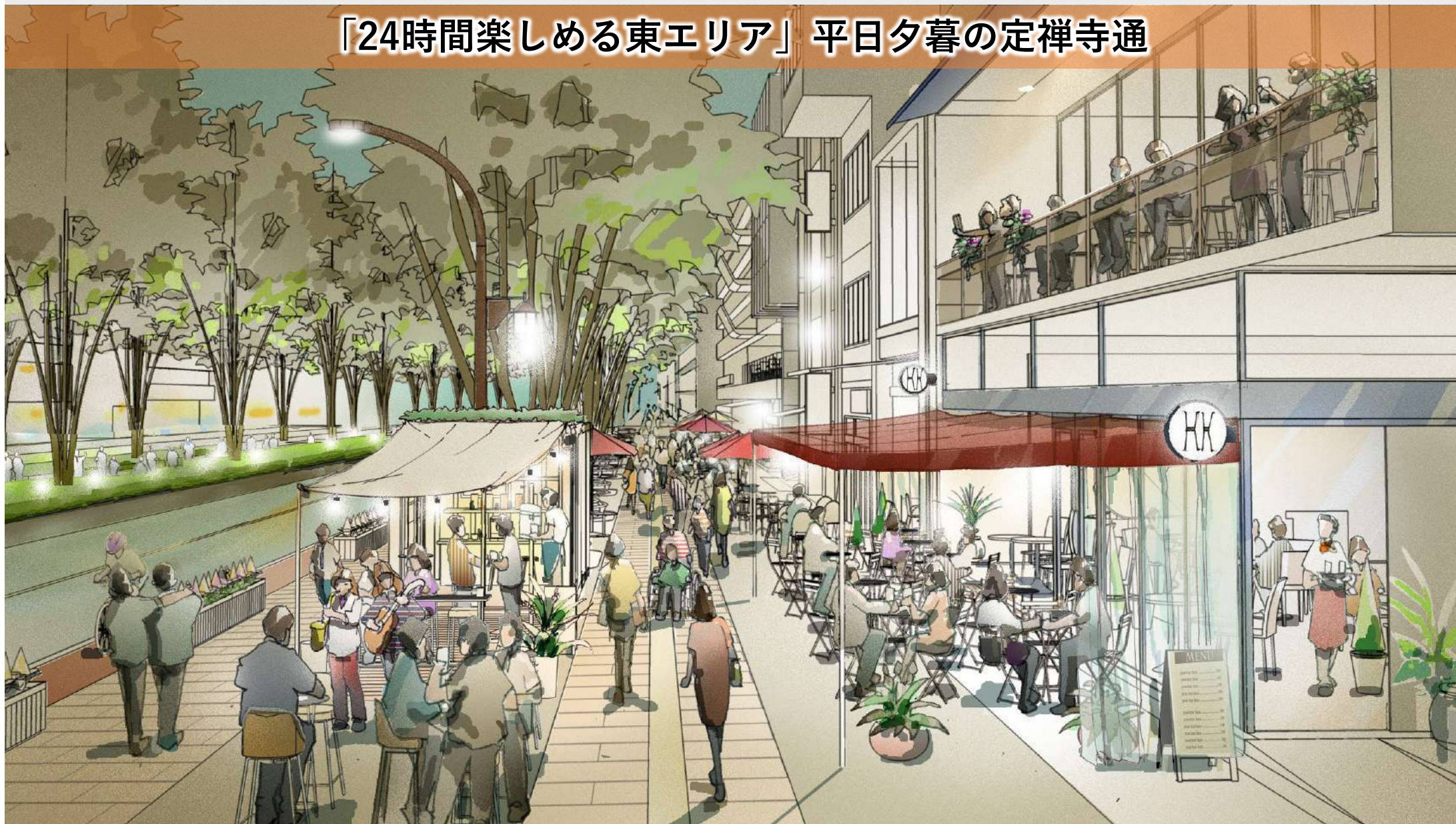
休日には軒先を貸し出し、  
いつもと違ったサービスを提供

イスやテーブルを置いて憩いの空間づくり



## 2030年までには実現したい空間イメージ②

「24時間楽しめる東エリア」 平日夕暮の定禅寺通





## 「24時間楽しめる東エリア」 平日夕暮の定禅寺通

〈解説編〉

- 沿道不動産オーナーやテナントを中心として空間が活用されています
- 公共空間活用等の収益をまちづくりに還元する仕組みづくりができています
- 仕事帰りの待ち合わせや“0次会”的に利用する空間になっています
- 国分町とのつながりを意識したおしゃれなファニチャーが置かれています

上層階テナント等やチャレンジショップ等が  
出店可能な路上の常設テナ

街のイメージを一体的にする  
連続したオーニングや色彩

街に開かれた  
ビュースポット

快適に歩き回るための  
十分な歩行空間

天気や季節に左右されずケヤキ並木を楽しめる  
歩道部分ににじみ出たカフェ等のテラス席



## 2030年までには実現したい空間イメージ③

「西公園SL広場周辺ゾーン」週末夕暮れ





## 「西公園SL広場周辺ゾーン」週末夕暮れ

＜解説編＞

- 定禅寺通からのアイストップとなる場所であることを意識しながら、新しいことにチャレンジしたい人をはじめ、様々な人々がクリエイティブな活動を展開する空間となっています
- おしゃれでこだわりのある屋外コンテンツが開催され、西公園を目的地として多くの人々が訪れます
- 日常的に西公園を利用する人も非日常の体験を楽しむ場となっています

偶然に訪れた人でも  
立ち寄りやすい設え

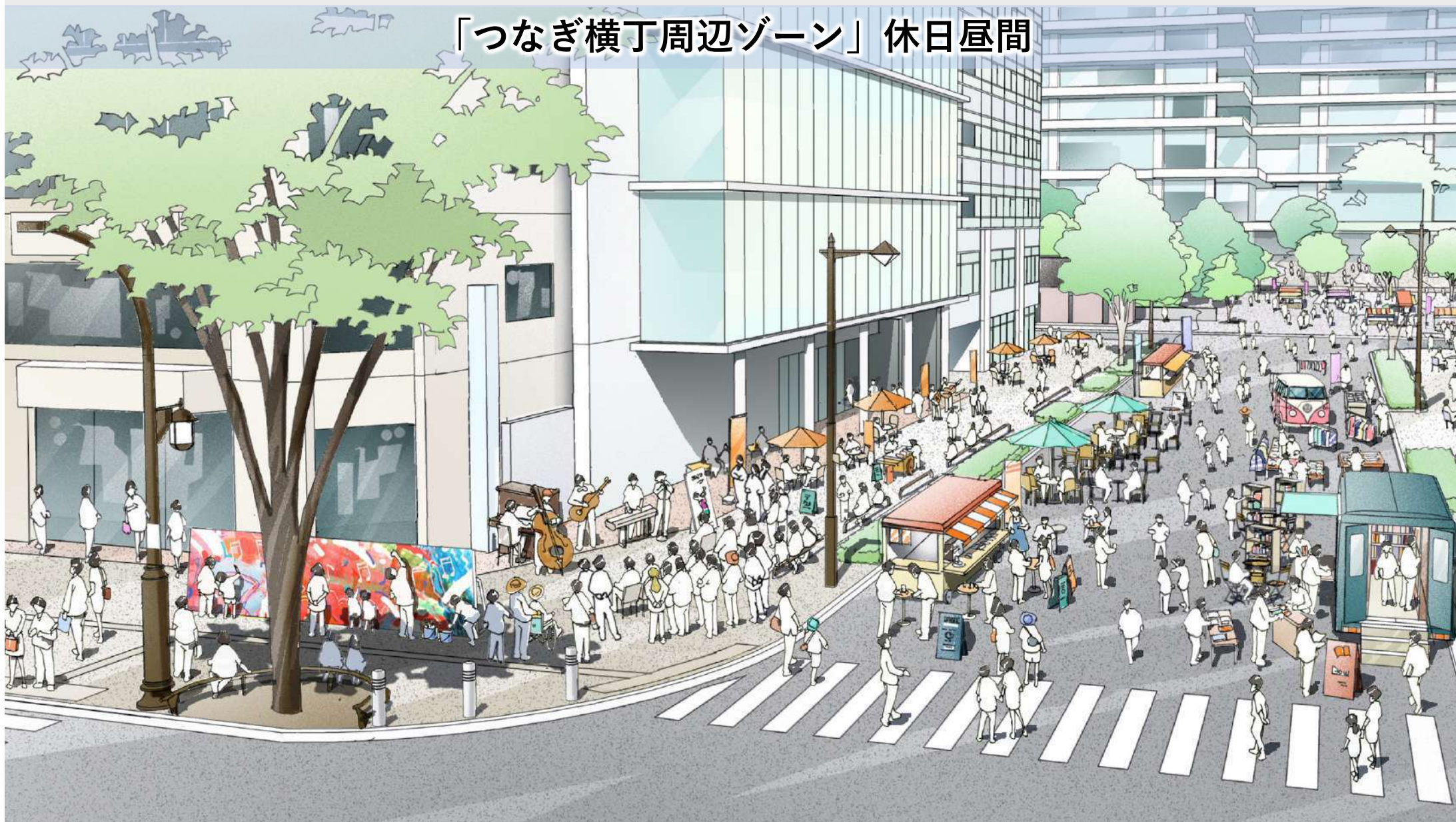
こだわりの料理が楽しめる  
屋外レストラン

非日常感を演出する音楽DJや  
映像VJによるライブ



# 2030年までには実現したい空間イメージ④

「つなぎ横丁周辺ゾーン」 休日昼間





# 「つなぎ横丁周辺ゾーン」 休日昼間

## < 解説編 >

- 一番町四丁目商店街～定禅寺通～つなぎ横丁～市民広場～本庁舎低層部が一体的に活用され、連続した賑わいが生まれています
- ミュージック、アート、ファッションなど多彩なカルチャーコンテンツを集めたイベントが定期開催され、学生をはじめ多様な人々の居場所となっています

歩行者天国に合わせた勾当台公園でのイベントの同時開催

歩道を活用したアート企画の開催

回遊動線を意識した出店ブース等の配置

民地スペースと道路空間が一体となった利活用

本庁舎～商店街の賑わいを連続させるつなぎ横丁の歩行者天国



# 2030年までには実現したい空間イメージ⑤

## 日常化を目指す社会実験等の取組み風景（中央緑道）





## 日常化を目指す社会実験等の取組み風景（沿道）





# 2030年までには実現したい道路空間の考え方

- 「2030年までには実現したい空間イメージ」を実現化するためには、官民連携による取り組みが不可欠です。
- 仙台市をはじめとした関係行政機関には、ハード（公共空間整備）とソフト（各種制度活用）の両面から、公共空間利活用の日常化に向けた施策展開を期待します。特に道路空間については、定禅寺通活性化検討会での議論や市民参加型シンポジウムでの意見、大規模社会実験の検証結果などをふまえ、「ひと中心の空間づくり」に向けたファーストステップとして、下記のような考え方により定禅寺通を再整備することを強く望みます。

## ケヤキ並木

- シンボルであるケヤキ並木を継承し、各ケヤキの生育状況に応じた保全管理を行う。

### 歩行者空間 (歩道+中央緑道)

- ひと（歩行、滞在、利活用など）の安全性を最優先とする。
- 利活用しやすい空間とインフラ設備（上下水道、電気など）、南北・東西の行き来しやすい環境を整備する。

### 自転車走行空間

- 自転車交通ルール（歩道での「押しチャリ」マナーなど）の周知、啓発を行うとともに、自転車専用通行帯の設置など自転車が走行しやすい環境を整える。

### 車道

- 片側1車線削減を基本に、歩道拡幅などの道路空間再配分を行う。
- 沿道の状況に応じて、公共交通やタクシー、物流車両等の必要なスペース・仕組みを整える。

## 全体的な道路構造

- 段差等による分断が少ないなど、柔軟な利活用が可能となる空間を整備する。



# 4つのエリアブランディング戦略

目指す街の姿の実現と「ひと中心の空間づくり」を進めるために、  
4つのエリアブランディング戦略を掲げ、官民連携によるまちづくりを進めます。

戦略

1

「**グランドレベル戦略**」  
でメインストリートをアップグレード！

定禅寺通の「みち」と「たてもの」の関係（グランドレベル）を『ひと』を中心に再構築します

戦略

2

「**イノベーション戦略**」  
で施設や場所の力をアップグレード！

エリア内の新陳代謝（イノベーション）を高め  
投資機会や経済活動を活発化させます

戦略

4

「**プロモーション戦略**」  
でエリアの発信力をアップグレード！

エリアの取組を一体的に発信（プロモーション）し  
定禅寺通エリアの価値を磨き広く訴求します

戦略

3

「**コンベクション戦略**」  
で回遊性・界隈性をアップグレード！

エリアに対流と滞留（コンベクション）を生み出し  
「回遊」を創り出します



# 戦略に基づくプロジェクトメニュー

※プロジェクトメニューについては、それぞれの主体が具体的内容や時期、ターゲットなどを設定しながら取り組んでいきます。

エリアブランディング  
戦略

1

グランド  
レベル  
戦略

メインストリート  
を  
アップグレード！

定禅寺通の  
「みち」と「たてもの」  
の関係を  
『ひと』を中心に  
再構築します

## PJ.1 街に開かれた沿道環境づくり

- 街に開かれたオープンな店構えづくりを推進する
- お店の雰囲気や明るさが街に滲み出すように、軒先空間の利活用を促進する
- 沿道空間を一体に捉えた定禅寺通にふさわしい店舗を誘致する仕組みをつくる

## PJ.2 ひと中心のみちづくり

- 車線を減らして広がった歩道を活用し、歩きやすく、ゆったり滞在できる空間づくりを進める
- 自転車のルールの周知・啓発（走行方法や「押しチャリ」マナー等）を官民連携で定禅寺通から発信し、歩行者の安全性を向上させる

## PJ.3 もっと自由で公園のような定禅寺通づくり

- くつろぐ・休む・話すなど多様な滞在行动を誘導するイス・ベンチ等を配置する
- 定期的に歩行者天国等を実施し、市民企画イベントを集めて「歩いて楽しい街」を段階的に実現する
- 歩行者中心の街を推進していくために、長期的な視点で、車道や歩道、緑道のあり方を検討する

## PJ.4 新しいチャレンジを生み出す場づくり

- 歩道や緑道などの公共空間及びセットバック部分や公開空地等の沿道空間を最大限活用し、チャレンジショップ・定期イベント等を同時多発的に開催する
- 「楽都」「学都」にふさわしい企画（ストリートミュージックやストリートピアノ、市民向け講座など）を推進する
- 国分町と連携した着地型観光やナイトタイムエコノミーを推進する

## PJ.5 おもてなしの心を磨く

- 誰もが気持ちよく過ごせるように、ゴミ出しルールや集積場所の再検討（「世界一美しいゴミ箱」づくりなど）を進める

## PJ.6 夜の景観づくり

- ケヤキ並木のある街の豊かさをひきたてるために、並木のライトアップなど、夜の景観づくりを官民連携で推進する

「出逢」が  
広がる街

「文化」を  
創造し  
続ける街

「価値」を  
高め合う街



※プロジェクトメニューについては、それぞれの主体が具体的内容や時期、ターゲットなどを設定しながら取り組んでいきます。

## エリアブランディング 戦略

# 2

## イノベーション 戦略

施設や場所の力を  
アップグレード！

エリア内の  
新陳代謝を高め  
投資機会や  
経済活動を  
活発化させます

### PJ.1 民有不動産の徹底活用

- 老朽化した民有建物や低未利用地については、リノベーション・暫定利用・建替え・共同利用など様々な手法を駆使して不動産の徹底活用を推進する

### PJ.2 公共施設再編との連携

- 老朽化した公共施設の更新・再編にあわせた官民連携事業を模索する
- 市役所本庁舎の建替えについて、本庁舎低層部と市民広場の一体的利活用への関与を目指す
- 県民会館移転後の跡地については、定禅寺通の「要」と位置づけ、周辺地権者等と一緒に勉強会を重ね、定禅寺通にふさわしい土地利用・機能導入につながるよう検討を実施し、提言等につなげる

### PJ.3 事業者間のコラボレーションで事業創発

- エリアの事業者等をマッチングし、定禅寺通ならではの新しい商品やサービスを創発する

### PJ.4 クリエイティブ人材が集う場づくり

- 若者・起業家のスタートアップやチャレンジを後押しする取組（ポップアップショップやチャレンジショップ、低廉な価格での場の提供、コワーキング・シェアスペース等、クリエイティブ人材同士をつなぐ機会の創出など）をエリア全体で推進する。

### PJ.5 世界に冠たる「環境都市」への取組

- SDGsや脱炭素等の社会動向を先取りして、建物や工作物等の「緑化」や「環境性能向上（LEED、WELLの認証取得推奨）」、「木質化」を推進する
- 民地も含め緑化やグリーンインフラを推進し、緑あふれる街並み「The Greenest City」のモデルエリアとなる
- 環境保全や地域資源の循環等を学び・実践するフィールドとなる

「出逢」が  
広がる街

「文化」を  
創造し  
続ける街

「価値」を  
高め合う街

ポップアップショップ：数日～数週間程度の、比較的短い期間限定で開設される店舗のこと

コワーキング・シェアスペース：事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルのための施設

LEED認証：エネルギーや資源利用など様々な観点から建築や都市の環境性能を評価する国際的な認証システム

WELL認証：人の健康とウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好であること）に影響を与える様々な機能の観点から建築や街区の環境性能を評価する国際的な認証システム

The Greenest City：仙台市基本計画2021-2030におけるまちづくり理念「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」



※プロジェクトメニューについては、それぞれの主体が具体的内容や時期、ターゲットなどを設定しながら取り組んでいきます。

## エリアブランディング 戦略

# 3

## コンベクション 戦略

回遊性・界限性を  
アップグレード！

エリアに  
対流と滞留を  
生み出し  
「回遊」を  
創り出します

### PJ.1 多様な人々、多様な主体の居場所となること

- 子どもから高齢者まで、個人から家族、友達同士、企業やNPO、市民団体まで、幅広く多様な市民・人々が訪れ、活動し、楽しめる環境をつくる

### PJ.2 定禅寺通へのアクセス性向上

- 地域内外をつなぐ交通機能の強化を検討する
- MaaS (Mobility as a Service) を推進する
- 定禅寺通に至る公共交通の分かりやすさを向上する (仙台駅前バス停のPR、地下鉄駅やバス停の名称及びネーミングライツ、仙台都心部からの案内表示の改善・充実等)
- 定禅寺通エリアの事業者サービス等と連携したモビリティ事業の展開を検討する

### PJ.3 勾当台公園・西公園の利活用

- 勾当台公園や西公園など、定禅寺通の東西に位置する大規模な都市公園の魅力を上向きさせ、定禅寺通エリアへの波及効果を高めるため、民間活力の導入等による日常的な管理運営に積極的に関わる

### PJ.4 小さなアクションをいたるところで展開

- 定禅寺通につながる通りや周辺の街区毎に、コンセプトや愛称などを設定した発信力のある取組を展開する
- 沿道の公開空地やコインパーキング等を活用したイベント・滞在空間化などを同時多発的に進め、訪れるたびにいろいろな楽しみを体験できるまちづくりを推進する

### PJ.5 身近な緑を増やし、季節を楽しめる街へ

- 裏通りや建物の軒先などでも「小さな緑化」「花飾り」を進め、ケヤキ並木を中心に街のあちこちで四季を楽しめる環境づくりを推進する

### PJ.6 先導的かつ環境にやさしい移動手段の導入

- グリーンスローモビリティなど、人と環境にやさしい公共交通の導入を検討する
- AIや自動運転を活用したオンデマンド交通、キックボードやパーソナルモビリティなど、多様な人々の「快適な近距離移動」を可能にする移動手段の導入を検討する

「出逢」が  
広がる街

「文化」を  
創造し  
続ける街

「価値」を  
高め合う街

**MaaS**：Mobility as a Service：地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応し、複数の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス  
**ネーミングライツ**：公共施設などの名称にスポンサー企業の社名やブランド名を付与する権利(命名権)のこと  
**グリーンスローモビリティ**：時速20km未満で公道を走ることができる、小さな低炭素型交通サービス  
**オンデマンド交通**：運行経路や運行スケジュールを、利用者の事前予約等の個別ニーズに応じて柔軟に運行する公共交通サービス  
**パーソナルモビリティ**：まちなかでの近距離移動を想定した小型の移動機器 (電動キックボードやセグウェイなど)



※プロジェクトメニューについては、それぞれの主体が具体的内容や時期、ターゲットなどを設定しながら取り組んでいきます。

## エリアブランディング 戦略

# 4

## プロモーション 戦略

エリアの発信力を  
アップグレード！

エリアの取組を  
一体的に発信し  
エリアの価値を磨き  
広く訴求します

### PJ.1 「定禅寺通エリアの今」を伝える

- HPやSNSを活用したエリア全体の情報プラットフォームをつくる
- 訪れた方が知り合い等に「伝えたい！教えたい！」と強く思うイベントやコンテンツをつくる

「出逢」が  
広がる街

### PJ.2 ビジュアルアイデンティティの確立

- エリア全体の統一的なブランディングを進めるために、ロゴやステートメントなどのビジュアルアイデンティティを定めて展開する

「文化」を  
創造し  
続ける街

### PJ.3 コミュニケーションツールとしての情報発信

- 定禅寺通エリアの魅力的な人や店舗を発信する情報誌等を発行する

### PJ.4 杜の都を象徴するケヤキ並木を活かしたブランディングの推進

- ケヤキ並木を活かしたブランディングにより、都市と緑が豊かに共存する「エコロジー」・「サステナブル」なエリアとしてのイメージを訴求する

### PJ.5 エリアマネジメント広告の実施

- 歩道上や民間の屋外広告物などを活用して、エリアのまちづくりの方針に沿ったエリアマネジメント 広告を販売し、まちづくりの資金とする

「価値」を  
高め合う街

### PJ.6 「定禅寺通エリアファン」の獲得

- 何よりも、この「定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030」とその間断のないアップグレードへの取組を通じて、私たちの想いを一人でも多くの市民に伝え、定禅寺通エリアのファン（応援者）を増やす

ビジュアルアイデンティティ：ロゴや色、フォントなどの、視覚的に表現した一貫性のあるデザインによって、ブランドの価値やコンセプトを象徴するデザイン要素

エコロジー：環境保全や地球環境に負荷をかけないといった、自然との調和・共存を目指す考え方

サステナブル：「持続可能な」という意味。主に自然にある資源を長い時間維持し、環境に負荷をかけないようにしながら利用していくこと

エリアマネジメント：地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み



# エリアマネジメント 持続的なまちづくりの取組体制について

## 【エリアマネジメント推進体制の必要性】

このビジョンの実現のためには、

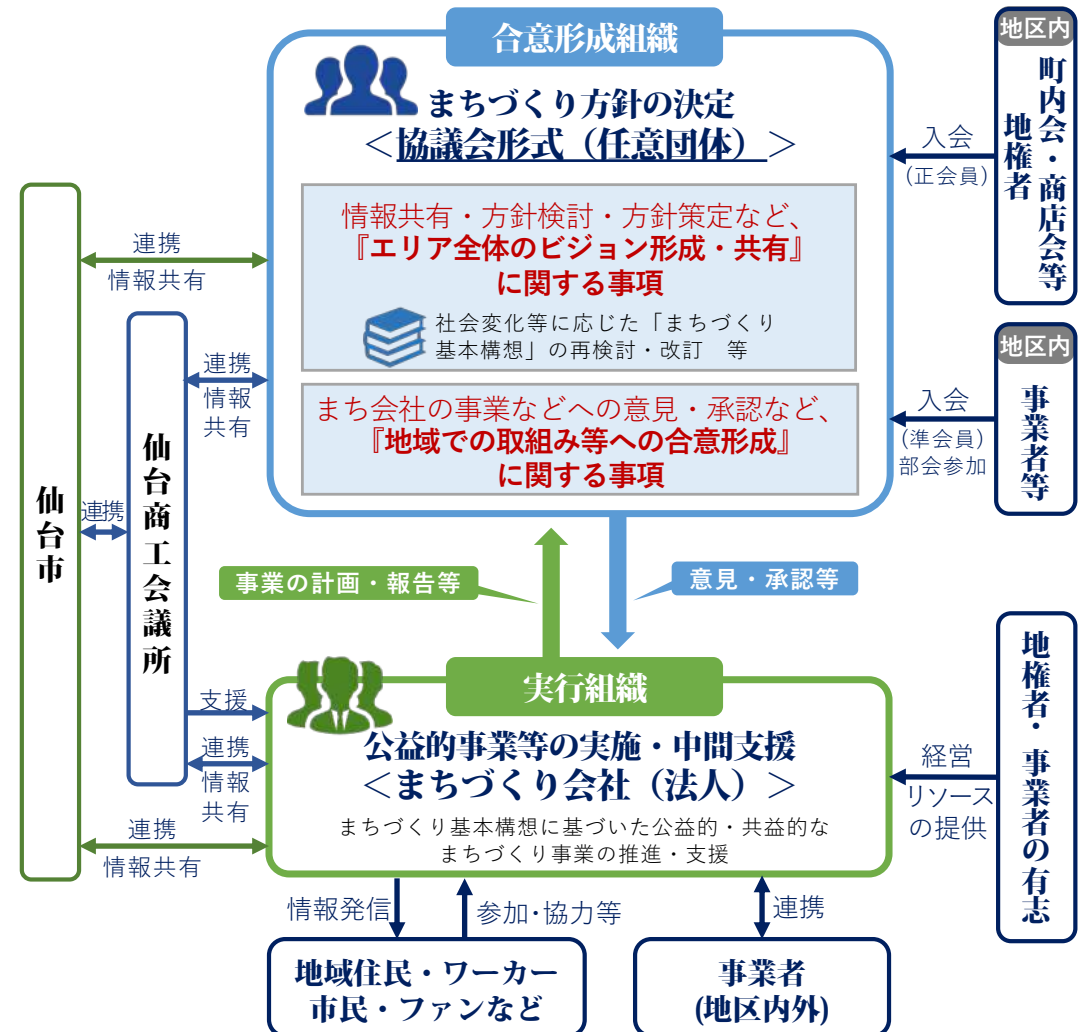
- エリア全体のまちづくりの方針（本ビジョンやエリアでの取組みなど）について、地域の関係者が意見を出し合いながら合意形成を行い、共有する体制が必要【合意形成組織】
- まちづくりの方針に基づき、長期的な視点を持ちつつ、社会や環境の変化にも対応しながら持続的かつ柔軟・迅速に取り組んでいく体制が必要【実行組織】

まちづくりの方針を決定・評価する「合意形成組織」とまちづくりの方針に基づいた事業を実施する「実行組織（まちづくり会社）」が両輪で進める体制が有効

## 【まちづくり会社の役割】

- 個別の事業者等では担うことが難しい公益的・共益的なまちづくり事業を主体的に実施すること【まちづくり実行機能】
  - 地域の合意形成や行政との調整・連携が必要である公共空間・公共施設を利活用したまちづくり事業の実施
  - エリア全体のブランディングにつながる情報発信や地域課題解決の取り組み（防災・環境分野）など
- 多様な主体のまちづくりへの参画によるエリア活力の向上に向け、そのまちづくり活動を促進するために必要な中間支援を行うこと【中間支援機能】

## エリアマネジメント推進体制（イメージ）





# エリアマネジメント エリアマネジメントの行動方針について

私たちが目指す街の姿を実現するため、3つの行動方針でまちづくりを進めます。

① <主体・体制>合意形成組織・実行組織を中心に、沿道事業者や市内外事業者も  
参画できる枠組み

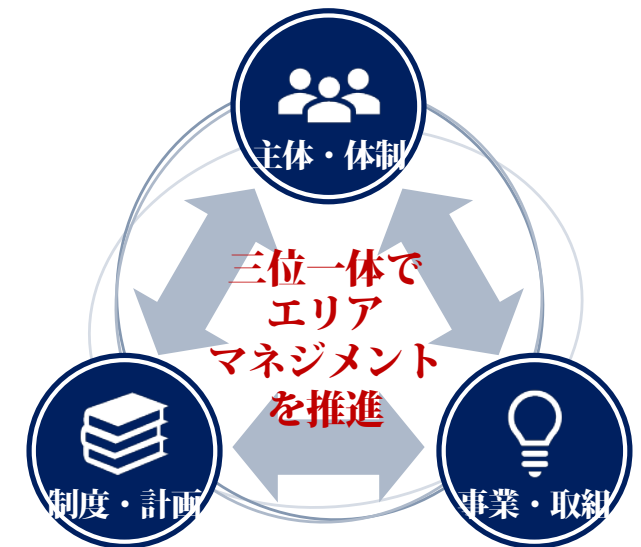
まちづくりを円滑に進めていくためには、多様な主体とのチームづくりが重要です。自分たちが主体となり、オール仙台で取り組むという意識を持ち、みんなでエリアのための事業に取り組んでいきます。

② <制度・計画>多様な制度や計画等を活用し官民連携を加速

エリア価値を高めるための取組を共に進めていくため、多様な制度の活用や市による行政計画への位置付けなど、官民で連携を図りながら事業に取り組んでいきます。

③ <事業・取組>受益と負担の関係を再構築しながら、4つのエリアブランディング戦略に基づいた事業にチャレンジ

継続性ある取組に育てていくためには、地域資源を徹底的に活用し、街の価値向上を図り、地域経済循環を促す仕組みが重要となります。受益と負担を明確にした上で、効用を最大化させる事業にチャレンジしていきます。



※定禅寺通エリアにおける街の変化のタイミングをとらえながら、戦略的にまちづくりを進めます



定禅寺通エリア  
まちづくりビジョン

2030

---

定禅寺通エリアまちづくり基本構想

2022.03

定禅寺通活性化検討会